

一般質問

川下
議員

○地域防災について

【質】 自主防災組織の必要性について市長の見解は。

【市長】 近年の自然災害は、想像を超えるものが多く、災害の規模によっては、公的機関による支援、救助、救護の対応に時間がかかる事態に陥ることも考えられます。一人でも多くの市民の命を守るためには、市民の皆さんが自分の命は自分で守ることを心がけていただき、自主防災組織の結成が必要だと考えます。

【質】 自主防災組織の単位を自治会単位から、川の氾濫や土砂災害など災害種を同じくする自治会同士で大きく組織する方が組織率を高める上、訓練などの実施率の向上につながるのではないかと提案したい。（すでに設置している自治会は除く）。

【市長】 要配慮者への支援は自治会単位が最も有効に機能するため、自治会ごとに結成することを基本に進めたいと思います。しかし、訓練等で連携できるところは連携できるように働きかけをしていきます。

【質】 一方、災害のリスクを減らす観点から見て志佐川の堆積物は問題と考える。県の管理下ではあるが市として今後の整備についてどのように

把握しているか。また、市長には今後改善や整備のためピッチをあげるよう県への強力なアクションをお願いしたい。

【市長】 市としては、継続的に河川管理者の県に対し、河川内の伐採及び堆積土砂の撤去を要望しています。さらに、長崎県及び長崎県議会に行っている特に重要な要望の中に志佐川の河川改良について要望を追加したところです。

○JCHO松浦中央病院（仮称）について

【質】 開院に向けたスケジュールと進捗状況について伺います。

【健康ほけん課長】 来年10月の開院に向け順調に進捗しています。

【質】 医師の確保について、計画に対する現在の見込みは。

【健康ほけん課長】 7名の計画に対し現在5名です。JCHOにおいて確保に努力されています。

【質】 平成29年9月2日に市内11団体を中心とした市民決起大会が行われるほど当院に対する市民の期待値は高く、それには医師の確保が重要な核となる。市長には医師確保に尽力いただきたい。

【市長】 市でも一定の役割を果たす必要があると考えており、JCHOとともに、長崎大学に対し要望を行っています。今後は佐賀大学に対しても同様の要望を行います。

一般質問

江
安
議員

○乗り合いバスの土・日運行について

【質】 志佐町開催のイベントに行きたいが、乗り合いバスが休みなので行けない。乗り合いバスの土日の運行を、との声にどう応えられますか。

【地域経済活性化課長】 運行事業者の運転手確保が難しく、運行経費も大幅な増額が見込まれ、赤字額も増加するため、実施は困難です。

【市長】 交通弱者と言われる方々の移動手段を確保することは重要な課題であることは十分承知していますが、財源は限られています。高齢者対策等と併せて施策を考え、本市において実施可能なものを考えます。

【質】（仮称）市民福祉総合プラザが出来上がり、今福や御厨方面から路線バスで来るとなると、降車は宮の前、松浦駅前となり、徒歩では遠いので何とか対応をしてほしいとの声もあります。地域公共交通網形成計画と一緒に考えられるのですか。

【地域経済活性化課長】 その点については、公共交通網計画とは異なります。西肥自動車と協議をしましたが、バス停をプラザ付近に設置するのは難しいとの結論になっています。

○原子力防災避難計画について

【質】 九電の玄海原発再稼働は容認しないという市民の声に反し、2基が稼働しております。過酷事故に対して住民は強い不安を抱いておりますが、避難計画の流れはどうなっていますか。

【防災課長】 鷹島地区は玄海原子力発電所から概ね半径5キロ圏内のPAZに準じた地域で、原子力緊急事態の時には避難をしていたく地域です。それよりも遠い半径30キロ圏内はUPZ圏内で、まず屋内退避をし、その後の放射線のモニタリング結果により避難をします。

【質】 避難の体制に応じた人・物・資機材などの配備について、また集団避難では、バスが130台余必要となっています。それぞれ、どうなっていますか。

【防災課長】 地域防災計画中の原子力災害対策編で、長崎県と打ち合わせで毎年改定して取り組んでいます。

【質】 住民が被曝せずに避難するためには、計画を詰めなければなりません。市長の考えはいかがですか。

【市長】 実際に事態が起きてみると計画どおりでないことがあり得ます。だからこそ、訓練をして足りない点、不備な点、気づいた点を今後の計画に反映することが必要です。

【質】 緊急エリアメールでは、外国の方への配信の検討はいかがですか。【防災課長】 今回初めての取り組みでしたが、今後は英語での配信も検討します。